

“日本のお家芸”X線天文学の系譜を継ぎ、熱い宇宙の中を観る

X線天文衛星ASTRO-H打ち上げは2月12日



① ASTRO-H 宇宙空間での想像図 (CG)

ブラックホールや銀河団などを世界最高の感度で観測し、熱く激しい宇宙に潜む物理現象を解明する

X線天文衛星「ASTRO-H」を搭載した、H-IIAロケット30号機の打ち上げが2016年2月12日(金)に決まりました。

「ASTRO-H」はブラックホール、超新星の残がいや銀河団など、X(エックス)線やガンマ線で観測される高温・高エネルギーの天体の研究を通じて、宇宙の構造とその進化の解明を行う天文衛星です。

「ASTRO-H」は、今年科学観測を終えたX線天文衛星「すざく」の後継機として開発され、JAXA、NASAをはじめ国内外の大学・研究機関の200人を超えるたくさんの研究者が開発に参加する、X線天文学の旗艦ミッションです。

大規模な国際協力で開発された4種類の新たな観測システムが搭載されたことにより、先代の「すざく」にくらべて10倍から100倍も暗い天体の分光観測が可能になります。

ASTRO-Hの観測装置



熱く激しい宇宙を解き明かすため、ASTRO-Hには、最先端の技術を駆使して開発された、2種類の望遠鏡と4種類の検出器が搭載されます。

軟X線分光検出器はX線マイクロカロリメータとよばれる技術を用いてX線光子のエネルギーを世界最高の精度で測定する装置です。世界中の研究者が期待しています。



11月27日に筑波宇宙センターで報道関係者に公開された「ASTRO-H」。約96分で地球を周回する高度約575kmの円軌道に投入される。

さらに詳しく知りたい方はコチラ



ASTRO-Hプロジェクトサイト

<http://astro-h.isas.jaxa.jp/>